

川崎医療生協

6月号



給手紙・イトウ

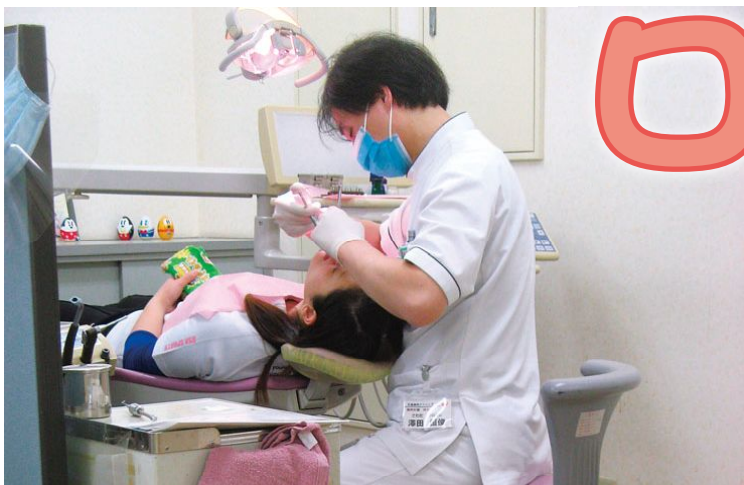
川崎医療生協の現状

(4月末)

組合員 44,368人
出資金 1,520,534,500円

川崎医療生協では一世帯5万円以上の出資金をめざしています。

発行所 川崎医療生活協同組合 川崎市川崎区藤崎4-21-2 発行責任者 木下 隆成
定価1部10円+60円(購読代金は出資金に含まれています) TEL.044(270)5881



治療中の澤田恒俊さん(所長)

口は元氣のとびら

歯と口の健康週間(6/4~10)



「病院に行くのは苦手で、特に歯科は…」しかし、かたくなてはならないのが、歯科。6月4日から10日まで「歯と口の健康週間」。忘れがちな口の健康のことなど、生協歯科クリニックの澤田恒俊所長の話をまとめてみました。

同クリニックは川崎協同病院横、桜本商店街入り口近くにあり、さくらも丸福神のひとつ毘沙門天が目印です。

8つの診療スペースがあり、澤田所長をはじめ、13人の職員が働いています。待合室の壁には、「食べることは生きること。生きることは食べること。いきいきき人生を支える、歯の健康を私たちはいつも見守っています」とクリニックの医療福祉宣言が掲げられています。

同クリニックは「だれでも、平等に、お金の心配がなくかかれる」「保険で8割の治療ができる」「からと、保険でよい医療にこだわり署名運動も進めています。でも時には、自費診療をすすめることもあります。「保険はききませんが、よい材料であるため、まずは説明します。患者さんの希望に近づけるよう話し合いながら決めます」

口からはじめよう 健康な体づくり

署名を進めるのは、「いまでは一般的になっている治療や材料でも、保険がきかないものがたくさんあります。保険が使えるようになれば、もっと治療の幅が広がります」と澤田さん。「保険でよい医療」の署名をもっと広げていきたい」

また、同クリニックは、「予約制なので待ち時間は少ないです。でも、ことわらない」を合言葉に、救急の患者さんも積極的に受け入れているので、患者さんには1時間待ちになることもあります。「歯の痛みや腫れて我慢できないでしょう。ひどくなった時はつらいし不安です。そんな時に、予約を取ってください」とは言えません。嬉しいことは「食事がおいしく食べられるようになった」と喜ばれたときです」

また、同クリニックは、「予約制なので待ち時間は少ないです。でも、ことわらない」を合言葉に、救急の患者さんも積極的に受け入れているので、患者さんには1時間待ちになることもあります。「歯の痛みや腫れて我慢できないでしょう。ひどくなった時はつらいし不安です。そんな時に、予約を取ってください」とは言えません。嬉しいことは「食事がおいしく食べられるようになった」と喜ばれたときです」

澤田所長をはじめ、歯科衛生士さんは積極的に、班会などに参加しています。

「口の健康は、予防をしっかりとすること、のちのちの体の健康に大きく影響します。ですが、なかなかそのことを知っていただけない。子どもから高齢者までの要望に、可能な限りこたえていきたい」

歯科治療では、定期的なチェックが必要です。同クリニックでは、治療が終わった後も、歯の状態に合わせ数カ月後に、検診の予約をとります。「予約の電話を入れます。患者さんの様子が開けたり、都合で予約の変更もします」この結果、リコール率(リ



生協歯科クリニックの皆さん(前列左から2人目が澤田所長)

保険で良い歯科医療の署名運動

◎全国保険医団体連合会の「歯科医療に関する一万人アンケート」では、9割の人が「歯は全身の健康にとって大切」と答えています。しかし、4割の人が「時間がない」「費用が心配」と歯科にかかりにくくなっています。

◎また「窓口負担が高い」と答えた人が5割を超え、10代から60代は6割。窓口負担の軽減が必要です。

◎9割を超える人が、「保険のきく範囲を広げて欲しい」と答えています。署名運動を進めましょう。

高齢者の口の健康の学習会から

感想

- インプラントの話は初めて知りました
- 歯磨きをきちんとしていれば、入れ歯にならずにすんだと思うと残念ではありません。
- 歯槽膿漏の原因は歯石によること。治療が大切だと思えました。
- 毎日歯を磨くこと。入れ歯もきれいにしましょう。などなど自分でもがんばってきれいにしようと思う。

青い空

今年の3月11日午後2時46分、宮城県女川町で一斉にサイレンの音と共に、市民の方と黙祷を奉げた。昨年行った時に比べ、目覚ましい復興の兆しが見えた▼南相馬市で警戒区域20km内をバスで走行中、測定器が鳴りどおし。町には人っ子ひとり見えず、スーパリーの看板が寒々しかった▼「母をぐくし、引きこもっていた。みんなの励みで、生きようと思った」。元気に頑張る若い方と会えてよかった。「来てくれて話してくれるのが、何よりの励まし」この話に、「また来よう」の参加者の声。現地の惨状をみるにつけ、何が収束宣言かと怒りを新たにした▼被害者は、原発賛成派、反対派の区別なく、故郷と切り離され、社会と分断された現実▼以前、新潟県巻町(旧)では原発誘致を巡って、長期にわたる賛成、反対と町を二分する状態となった。町の将来、孫たちのことは自分たちで決めると、住民が運動を進めた▼この事実をモデルに完成した映画「渡されたバトン、さよなら原発」が川崎市内で上映会が始まる▼参院選が始まる。よく見極めて、今度こそ住民の味方の政党の勝利を望む。

宮澤 明